みんなのスポーツ

©吉田戦車／小学館

圧巻のコールドV

豊上ジュニアーズ（柏）▶全国へ抱負

高円宮賜杯第41回全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント千葉県予選

千葉県野球協会主催、千葉県少年野球連盟主管、東京新聞・東京中日スポーツ後援

千葉県代表を決める戦いは5月30日、袖ケ浦市の百目木公園野球場で準決勝と決勝が行われ、一昨年全国3位の豊上ジュニアーズ（柏）が東金東クラブ（九十九）を決勝で下し、8月に新潟県で行われる全国大会への出場を決めた。千葉市原マリーンズ（市原）と稲荷木イーグルス（市川）が3位だった。（鈴木秀樹）

マ決勝
東金東クラブ　0000000｜0
豊上ジュニアーズ　3321x｜9
（五回コールド）
（東）渡邊陸、菊地健志、齊藤幸空、常盤颯人
（豊）本橋知哉、福井勇翔、福井本橋

準決勝を8－0、決勝を9－0。いずれもコールド勝ちで最終日の2試合を終え、豊上ジュニアーズが全国への切符を手にした。

「目標は豊上」と公言し、決勝まで勝ち上がった東金東クラブの関根詢監督は「歯が立ちませんでした」と完敗を認めた後、つぶやいた。「千葉県一を目指したウチと、全国一を目指す豊上の差が、これなのかな…」

決勝は豊上が初回、先頭の福井勇翔が内野安打で出塁、二盗後に畠山響が送り、常田幸泰の中越え三塁打であっさりと先制。さらに野選と森岡隼和の適時打で計3点を挙げて主導権を奪うと、あとは終始、豊上の流れ。そつのない走塁に小技も絡めて得点を重ね、あれよあれよと点差を広げた。長打は多くないものの、全員のスイングが鋭いために打球が速く、内野安打と相手内野守備の失策が多かったことも、豊上のスピードを物語る。

この日は2試合とも「きょうが一番良かった」本橋知哉と、「ベストの投球ができた」福井の2枚看板による投手リレー。決勝はひとりも走者を出さない、パーフェクトリレーのおまけつきだ。右翼を守る荒井遥翔が2度にわたり、右翼線にフラリと上がった安打性の当たりをスライディングキャッチするなど、守備力でも相手を圧倒した。

「この大会では湿っていた打線が、最終日に力を出してくれた。ピッチャーがしっかり投げてくれれば、こういう試合ができるチームなんです」と高野範哉監督。全国3位だった一昨年のチーム、コロナで大会がなかったものの、実力は一昨年以上ともいわれた昨年のチームと比べ、小粒といわれてきた今季の豊上。「それもあったから、絶対に優勝したかった。本当にうれしい」と藤村公大主将は声を弾ませた。

3番打者として3打数3安打の常田、守備で見せた荒井の5年生レギュラー2人は「優勝に貢献できた」と満足そうで、「全国でも良いプレーをしたい」と、まだ見ぬ大舞台を心待ちにしているようだった。

【豊上ジュニアーズ優勝メンバー】⑩藤村公大①福井勇翔②本橋知哉③中村吏都④森岡隼和⑤小平隼斗⑥米山仁⑦畠山響⑧村上陣⑨畠山陽⑪勝海晴弥⑫上野慶一郎⑬川上決裕⑭大内秀剛⑮常田幸泰⑯安野響太⑰鎌田禮寅⑱杉浦遥斗⑲荒井遥翔⑳鈴木瑛人

優勝した豊上ジュニアーズ＝いずれも千葉県袖ケ浦市の百目木公園野球場で

四回裏、この日2本目となる適時打を放つ森岡

二回表、右前に安打を放つ1番・福井

先制二塁打を放った後、次打者の内野ゴロで2点目のホームに滑り込む常田

三回表無死、一塁手後方に上がった飛球をスライディングキャッチする荒井

準決勝まで善戦

決勝こそ大敗に終わったが、堅実な守備と小気味よい攻撃で得点を重ねて準決勝までを勝ち進んだ東金東クラブも、見事な戦いぶりが光る準優勝だった。関根監督は「最終日はダブルヘッダー。その準備も含め、豊上さんにはかなわないなあ、というのが印象ですが、ここまで良いプレーを見せてくれました」と選手らをねぎらった。

昨年は大会がなかったため、2年ぶりの出場となった。一昨年は初戦敗退。「2年前を超えたかったので、それは良かった」と関根悠雅主将。「決勝で負けて悔いはあるけど、ここまで良く戦えたと思う。これからも意識を高く持って戦いたいです」と、今後の戦いに向けて気持ちを切り替えていた。

【東金東クラブ準優勝メンバー】⑩関根悠雅①渡邊陸②齊藤幸空③常盤颯人④長谷川唯人⑤武田響⑥菊地健志⑦戸村光希⑧赤石康⑨長島悠人⑪折田樹夏⑫伊藤友政⑬山本雄大⑭渡邊礼大⑮中村優希

マ2回戦
東金東クラブ（九十九）　4－1　弥勒少年野球クラブ（北総）
千葉市原マリーンズ（市原）　7－6　今井ジュニアビーバーズ（千葉）
豊上ジュニアーズ（柏）　6－5（タイブレーク八回）　八街マリーンズ（印旛）

マ準決勝
東金東クラブ　5－3　千葉市原マリーンズ
豊上ジュニアーズ　8－0（五回コールド）　稲荷木イーグルス（市川）

マ準決勝
稲荷木イーグルス（市川）　4－2　常盤平ボーイズ（東葛）

準V　東金東クラブ（九十九）

準優勝の東金東クラブ

3位　稲荷木イーグルス（市川）

3位の稲荷木イーグルス

3位　千葉市原マリーンズ（市原）

3位の千葉市原マリーンズ

王者追い詰めた　2回戦でタイブレーク

2回戦で王者・豊上ジュニアーズとタイブレークにもつれる接戦を演じた八街マリーンズ

八街マリーンズ（印旛）

4試合のうち3試合をコールド勝ちと、圧倒的な内容で優勝した豊上ジュニアーズと2回戦で対戦、唯一、タイブレークまで持ち込む戦いで、王者を追い詰めたのが八街マリーンズ（印旛）だった。先発の林源太が豊上打線を3％0封の好投。四回に先制されながらも五回表には鈴木皇成主将の左翼線適時二塁打などで逆転するなど、大金星まであと一歩としたが、延長の末に惜敗した。鈴木主将は「悔しいけど、最後まで声を切らさず戦いきれました」と振り返った。

みんなのスポーツ公式HP

紙面に掲載された写真を有料でお分けしています
←申し込みなど詳しくはこちらから

「みんなのスポーツ」は火曜、水曜、木曜、金曜の東京中日スポーツ（トーチュウ）にも掲載。本紙の地方版でも随時、記事を掲載しています。